

製造業

自動車カスタムパーツ印刷

LEF-20

コスト、ロット、納期が劇的に短縮 フルオーダー品が500個に急成長



BRECEの社内にはLEF-12、LEF-20の2台が並ぶ。他にもローランド・ディー・ジーの切削機「MDX」も導入している。藤本社長は、「ローランドなら、MDXからLEFまでトータルで機械を揃えられる安心感があった」。

王 夫とアイデア次第で様々なことが出来るので、デザインが無限大に広がります。ちょっと街を歩いていても、『あれもできる、これもできる』と思えるようになつたんです。

（株）BRECEの藤本敬二郎社長は、ローランド・ディー・ジー（株）の厚物UVプリンター「LEFシリーズ」を実際に導入し、活用した感想を語ってくれた。

同社は車のカスタムパーツ製造を手がける工房として2006年に創業。オリジナルデザインの外装パーツやユニークな機能の電装パーツなどを作り、ネットショッピングなどで販売をおこなつている。消費者はこれらのパーツを購入し、自分の愛車にとりつけてカスタマイズを楽しんでいる。車のカスタムパーツと聞くとOGBSとはかけ離れているように思える

が、実際はオーダーメイド商品も多く、一般的なOGBSよりも深く踏み込んだ技術が必要とされている。

近年のヒット商品は、車名やイラストをプリントしたオリジナルデザインのエンジンスタートボタン「Ritorun（リトルン）」。

エンジンスタートボタンは小さいパーツだが、オリジナルデザインを作るには、大変な労力やコスト、時間が必要だった。それが、「LEFシリーズ」を導入したことでの劇的に変化した。

印刷コストがLEFで100分の1になつた！

リトランの製作は、対応車種に合わせた金型を起こし、無地のボタンを作ることから始まる。そこ



④藤本敬二郎社長（右）と取締役兼デザイナーの藤本博江氏（左）。

company profile

株式会社BRECE
〒223-0058
神奈川県横浜市港北区新吉田東1-53-28
<http://www.brece.co.jp>

【事業内容】

- 自動車部品の企画、設計、研究開発、製造、販売
- WEBサイトに関するコンサルティング、製作、管理
- OEM請負（自動車ディーラー向け）



①ICカードパスケース。②Cピラーのアクセサリーパーツ。夜間はハイブリッドマークが点灯する。③④オリジナルのエンジンスタートボタン「Ritorun」。これらを購入する車の愛好家たちは几帳面なので、高品質な仕上がりが要求される。藤本社長は、「そこが一番気を使うところです」。⑤BRECEオリジナルのシフトバー。ロゴやイラストも精細に表現できている。

れに時間やコストがかかる。
以前は試作品1つをプリントするのに約10万円かかっていた。ロットも100個単位で、納期は約2ヶ月。歩留りも悪く、100個の製品を作るのに無地ボタンを50個余分に印刷業者へ預けなければならなかつた。

これはボタンへのプリントが「タンポ印刷」という特殊な印刷方法を用いるためで、「そもそも小ロットで受けてくれる業者がほとんどないんです。また、ボタンは内側から光る仕組みなので、光を透過させる部分、させない部分を作るため版がいくつも必要で、余計に時間がかかる。さらに、小ロット注文は後回しにされがちなので、納期が伸びてしまうんです」(藤本社長)。

納期も2ヶ月から翌日出荷が可能になつた。歩留りも大幅に改善し、以前は多かつたが、それも「LEF-12」に変えたことでほぼゼロに。さらには、「デジタルなので仕上がりが予想しやすい。完成イメージをお客さんに見せることができるようになって顧客満足度もアップしました」(藤本社長)。

フルオーダー品ゼロが500個に急成長

導入の効果はこれだけではない。リトランは同社があらかじめデザインしたセミオーダー品販売がメインだつたが、LEF-12に

よつて1個から製造することが可能になり、「以前はほとんどなかつた、お客様の要望に合わせてオンラインのデザインをプリントするフルオーダーの注文が500個に増えたんです」。

セミオーダーのリトランは40

の場合は60000円(税込)で販

売。経費圧縮だけでなく、客単価

アップにも貢献している。

同社の躍進はまだまだ続く。何と、2014年1月にはLEF-12の上位機種でワイドタイプの

「仕事が増えて平日はプリンターがフル稼働している状態。さらに、大きい商品にも取り組みたかったから」と藤本社長。その理由は、更に生産性を向上させ、商品開発の幅を広げようというワケだ。

LEF-12の導入によって今まで難しかつたナンバープレート、スマカバーやスカッフプレート、スマイドアのドアハンドルへのプリントが可能になる。

また、藤本社長はLEFシリーズの良さについて、「ポリカやABSなどにインクの密着がいい。POMでも下地処理をすればプリントできるんです。

透明インクはトップコートとして内装のシボや木目も表現できる。白インクも遮光印刷などに重宝しています」。

同社では他にもバスケースやスマホカバーなど、様々な商材にUVプリントをおこなうようになり、カーパーツ分野でのOGBSの最先端を走る存在に成長した。「ユーチャーニーズはどんどんオーリーワン、オリジナルを求める方向に傾いている。若者の車離れなどが叫ばれていますが、オリジナリティを出したい、こだわりを持ちたいと感じている層は間違いなくあるんです」(藤本社長)。

デジタルなので 仕上がりが予想しやすい

コスト、ロット、納期、歩留りの点で大きな問題を抱えていたエンジンスタートボタンだが、12年の秋に導入した厚物UVプリント「LEF-12」によって劇的に改善した。

まずコスト。試作1個にかかっていた費用は「LEF-12」によって100分の1までダウン。ロットも100個単位から1個に。

LEF-12によって経費圧縮だけでなく、客単価アップにも貢献している。同社の躍進はまだ続く。何と、2014年1月にはLEF-12の上位機種でワイドタイプの

「LEF-20」を導入。LEF-20の導入によって今まで難しかつたナンバープレート、スマカバーやスカッフプレート、スマイドアのドアハンドルへのプリントが可能になる。